

1 キッチン土間から奥間をみる。手前右に100×50mmの高野積を積層して作られたキッチン。左に見える100×100mmの高野積を積み上げて出来た壁の向こう側はトイレ。

4 坪庭からみる。正面中央にキッチン、右にトイレの高野積積層壁。左に風呂として利用する既存付属家。このレンガ壁と同じウォリウムで2つの高野積積層壁を作る。積層された木材のテクスチャーはレンガの表面を想起させる。

居間本欄部分の既存柱に貫を入れている様子。



花内屋

新旧木材のコントラストが織り成す温かくも緊張感のある空間

築200年の古い町家のリノベーション。若い夫婦と子供達が暮らす場所をつくる。新建材によるハリボテを全て削ぎ、建設当初の柱、梁を表舞台に再び登場させる。既存建物は可能な限り補修して昔のままの姿を残している。新たに増設するものは、将来のギャラリーへのコンバージョンに対応し、仕上げから構造補強部材に至るまで全て接着材を用いず、楔・ボルトにより簡単に組み立てられ、分解再利用可能なプロダクティブなものにとどめている。それらは、近場で入手できる吉野産杉・檜・高野積によって製作し、可能な限り古材や古い土も再利用している。収納機能を併せ持つ貫壁を利用した耐震補強と、葛城山系の地下水位が極めて高いこの場所の温度の調整等の為に再生土を利用した空気環境調整の機能を備えている。また豊かな既存の庭や半屋外の土間から内部空間へと滑らかに連続しながら、行き止まりの無い回遊動線を作っている。

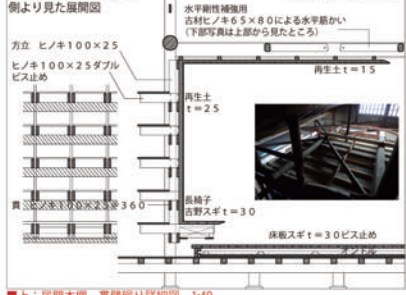
通り土間や坪庭とつながる事で柔らかな光や風が通り抜ける新しい空間の気持ち良さは、本来この町家が持っていた魅力である。我々はこのリノベーションによりただそれを取り戻しただけである。

■ 改修平面図 1:100



● 高野積積層壁
● 吉野杉小幅板材
● 吉野積貫壁
● 既存建物
● 写真アングル
..... 坪庭や通り土間から滑らかに連続する回遊動線

■ 上：居間本欄 貫壁廻り詳細図 1:40



■ 上：キッチン高野積積層壁 断面詳細図 1:20



2 調湿機能を期待した再生土で仕上げられた壁・天井。貫壁とその補強部材を下地。左に見える高野積積層壁の向こうはトイレ。



3 キッチン土間から奥間をみる。左手に見える再生土を利用した壁・天井の連続面が坪庭から差し込む光を柔らかに包み込む。中央奥に見えるスチール壁は既存部との間に収納が隠されている。天井部に見える斜材は古材でありこれにより水平剛性を確保。



5 キッチン土間。正面奥通り庭にある洋埦場と右の収納部との壁面線をあわせ、廊からキッチン土間の連続性を強化。キッチン収納は貫壁の補強部材を利用して作られている。



6 キッチン収納。右奥に見える洋埦場を想起させる白く光る和紙の壁により内外・新旧を連続させている。和紙の向こうに耐震補強用の貫壁が透けてみえる。